

執筆要領新旧対照表

新執筆要領	旧執筆要領	備考
3 原著は、犯罪心理学に関する調査・実験・事例研究を内容とし、原則として①問題及び研究史、②方法、③結果、④考察、⑤引用文献の各部分から成り立ち、十分な理論的考察を備えた論文であることが望ましい。また、犯罪心理学の基本命題に関する理論的考究又は提言も原著として採用することができる。	3 原著は、犯罪心理学に関する調査・実験・事例研究を内容とし、原則として①研究要旨、②問題及び研究史、③方法、④結果、⑤考察、⑥引用・参考文献の各部分から成り立ち、十分な理論的考察を備えた論文であることが望ましい。また、犯罪心理学の基本命題に関する理論的考究又は提言も原著として採用することができる。	研究要旨が不要になったため削除 剽窃の問題を避けるために引用・参考文献を引用文献に修正
8 論文等の型式は、次のとおりとする。 a 論文等の長さは、表題、著者名、所属機関名、英文抄録、本文、表、図などすべてを含めて本誌13頁（約21,000字）までとする。 b 本文は、左横書き（横22文字×縦37行）とする。 c 文章は、常用漢字、現代仮名遣いを用いる。	8 論文等の型式は、次のとおりとする。 a 論文等の長さは、原則として、本誌13頁（約21,000字。表、図等を含む。）までとする。 b 本文は、左横書き（横22文字×縦37行）とする。 c 文章は、口語体、常用漢字、現代仮名遣いを用いる。	論文等の中身が不明であったため明記
9 削除	9 原稿は、原則として、市販の文章、表等作成用ソフト及び汎用性のあるフォントを用いて作成する。	
11 論文等には、英文の題目、所属機関を原稿の1枚目下部に記す。なお、原著、資料及び展望には、英文200語以内の抄録を付ける。	12 論文等には、欧文の題目、所属機関を原稿の1枚目下部に記す。なお、原著及び資料には、英文200語以内の抄録を付ける。ただし、資料については英文抄録を省略することができる。	英文抄録が必須となったことに伴う修正

12 英文抄録の作成に当たっては、 a 邦訳を添えること。 b 熟達した人の翻訳であるか、又はその校閲を経ていること。	13 <u>欧文</u>抄録の作成に当たっては、 a 邦訳を添えること。 b 熟達した人の翻訳であるか、又はその校閲を経ていること。 c <u>白紙に2行おきに印字すること。</u> d <u>欧文，邦訳共2通ずつ提出すること。</u>	同上
13 論文には、分類・検索のためのキーワードを日本語<u>及び英語</u>で3項目ないし7項目記す。	14 論文には、分類・検索のためのキーワードを原則として日本語で3項目ないし7項目記す。	同上
17 <u>引用文献</u>は、論文等の最後にアルファベット順に一括して掲載することとし、本文中には「著者名(発表年)」の形式で記載し、肩に数字を付さない。同一著者の同一年中の文献については、発表順にa・b……を発表年の後に付する。	18 引用・参考文献は、<u>それぞれ</u>、論文等の最後にアルファベット順に一括して掲載することとし、<u>引用文献については</u>、本文中には「著者名(発表年)」の形式で記載し、肩に数字を付さない。同一著者の同一年中の文献については、発表順にa・b……を発表年の後に付する。	引用文献としたことに伴う修正
18 <u>引用文献</u>の表示は、次のとおりとする。<u>DOI (Digital Object Identifier) を含めることを推奨する。</u> a 雑誌の場合、著者名・発表年・題目・雑誌名・巻号数・論文所在頁・<u>DOI</u>の順とする。 (例1) 遠藤辰雄 1963 犯罪心理学研究の現状 犯罪心理学研究, 1(1), 1-7.	19 引用・参考文献の表示は、次のとおりとする。 a 雑誌の場合、著者名・発表年・題目・雑誌名・巻号数・論文所在頁の順とする。 (例1) 遠藤辰雄 1963 犯罪心理学研究の現状 犯罪心理学研究, 1(1), 1-7.	引用文献の多様化に即した修正・追加

(例2) <u>Wasserstein, R.L., & Lazar, N.A. 2016 The ASA's statement on p-values: context, process, and purpose. <i>The American Statistician</i>, 70(2), 129-133. doi:10.1080/00031305.2016.1154108</u> b 単行本の場合、著者名・発行年・書名・発行所の順とし、翻訳の場合は原語によるもののほか、末尾に（原著者名・訳者名・発行年・書名・発行所）を付する。 (例1) 水島恵一 1962 非行臨床心理学 新書館 (例2) Bennett, I. 1960 <i>Delinquent and neurotic children</i>. London: Tavistock Publishers. (例3) Tyler, L. E. 1963 <i>Tests and measurements</i>. Prentice-Hall. (タイラー, L. E., 高田洋一郎 (訳) 1968 テストと測定 岩波書店) c <u>単行本の特定の章を引用する場合、著者名・発行年・表題・編集者名・書名・引用ページ・発行所の順とする。</u> (例1) <u>早 攄 一 男 1998 児童相談所における家族療法の活用 生島浩・村松励 (編) 非行臨床の実践 (pp. 145-159) 金剛出版</u>	(例2) <u>Waldo, G. P., Dinitz, S., & Coombs, C. H. 1967 Personality attributes of the criminal. <i>Journal of Research in Crime and Delinquency</i>, 4(3), 185-202.</u> b 単行本の場合、著者名・発行年・書名・発行所の順とし、翻訳の場合は原語によるもののほか、末尾に（原著者名・訳者名・発行年・書名・発行所）を付する。 (例1) 水島恵一 1962 非行臨床心理学 新書館 (例2) Bennett, I. 1960 <i>Delinquent and neurotic children</i>. London: Tavistock Publishers. (例3) Tyler, L. E. 1963 <i>Tests and measurements</i>. Prentice-Hall. (タイラー, L. E., 高田洋一郎 (訳) 1968 テストと測定 岩波書店)	
---	---	--

(例2) <u>Enns, J.T., Visser, T.A.W., Kawahara, J., & Di Lollo, V. 2001</u> <u>Visual masking and task switching in the attentional blink. In K. Shapiro(Ed.) <i>The limits of attention: Temporal constraints in human information processing</i> (pp. 65-81). New York: Oxford University Press.</u>		
d <u>オンライン資料の場合, 著者名・公開年・表題・ウェブサイト名・Retrieved from URL・アクセス年月日・DOI の順とする。</u>		
(例1) <u>文部科学省 2010 平成21年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について</u> <u>平成21年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果(暴力, いじめ, 高等学校不登校等)について</u> <u>http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/09/1297352.htm (2011年3月5日取得)</u>		

(例2) <u>McCord, J. 1991 Family relationships, juvenile delinquency, and adult criminality. Wiley Online Library. http://sites.psu.edu/scoratti/wp-content/uploads/sites/975/2013/04/article-on-family.pdf (October 29, 2015) doi:10.1111/j.1745-9125.1991.tb01072.x</u>		
19 表, 図は, 必ず別紙とし, 掲載箇所を本文中に<u>分かりやすく記す</u>。なお, 表, 図を印刷する場合, <u>紙面の一部分又は大部分を要するので, これに相当する字数を論文等の全字数のうちに含める</u>。	20 表, 図は, 必ず別紙とし, 掲載箇所を本文中の<u>欄外に朱記する</u>。なお, 表, 図を印刷する場合, <u>大きな紙面を要するので, これに相当する字数を論文等の全字数のうちに含める</u>。	電子データによる提出に伴う修正
25 本要領に明記されていない点については, 事務局に問い合わせるか, 日本心理学会編「<u>執筆・投稿の手びき</u>」を参照する。	26 不明な点については, 事務局に問い合わせるか, 日本心理学会編「<u>執筆・投稿の手びき</u>」を参照する。	執筆要領による記載が困難だった場合の対応について修正
27 原稿は, 原則として, 同原稿を <u>PDF化した電子ファイルを日本犯罪心理学会あてメール添付して送信する。ただし, 印刷したものを郵送する投稿形式も可とする</u>。	28 原稿は, 印刷したものを日本犯罪心理学会あて郵送をもって投稿する。ただし, 同原稿を <u>PDF化した電子ファイルをメール添付して送信する投稿形式も可とする</u>。 なお, 原稿を <u>PDF化した電子ファイルをメール添付して送信した場合は, その旨を, 原稿とは別に日本犯罪心理学会あてにメールまたはファックスにより連絡する</u>。	原稿の送付方法についての修正